

除夜の鐘

さて、今年もいよいよ終わりになりますが、年の終わりの行事は各地で色々と行われていると思います。水戸市では、以前に那珂川で花火が打ち上げられていた時もありましたが、今はやってないようですね。大晦日の花火もなかなかよかったですと思うのですが、予算の関係なのでしょうか？残念です。

それにしても、大晦日と言えばやはり「除夜の鐘」でしょうか。この除夜の鐘は、108の煩惱を除くなどとも言われており、この習慣は鎌倉時代に中国(宋)から伝わったと言われております。

しかし梵鐘の本来の役割は、刻の鐘。朝夕に寺の法要の始まりを知らせる役目でした。ですから、私どもの宗派（浄土真宗本願寺派）では、法要開始1時間前に突くと決められております。朝の鐘の音が聞こえたら、寺に集まって、朝の法要の開始を待つわけです。

第一浄土真宗では、煩惱を断ぜずに我が身このままで救いとて頂く（不断煩惱得涅槃）という教えでもありますので、除夜の鐘を突くことで108の煩惱が除かれるというのは、教えそのものと相容れないわけです。…などと大上段に構えずとも、鐘を突くことで本当に煩惱が取り除けるのであれば、お釈迦様が悟られるまで費やした時間はいったい何だったのだと言うことになってしまいます。ですから、私は、鐘の音が煩惱を消去してくれるわけでは無いと思います。

しかし、梵鐘の音を聞いていると、それが煩惱を消し去ってくれるものでは無いでしょうが、心がしっとりすると言うか、落ち着いた、穏やかな気分になります。一年の最後に、梵鐘の音を聞きながら年を越すというのも、落ち着いた、穏やかな気分で新年を迎えると考えれば、除夜の鐘も良いものだと思います。